

調査団体名	有限会社OZ(オズ) 海島遊民くらぶ		団体代表者名	江崎貴久	
設立年	2001年 有限会社OZ 2002年 海島遊民くらぶ *OZが母体で海島遊民くらぶが発足。今は同じ。		団体URL	http://oz-group.jp/	
活動地域	鳥羽市(離島を含む)とその周辺		会員数	スタッフ12人	
取材日	2009.09.27-28	レポート作成者	北橋夕里桂 竹峰誠一郎	調査員	寺井、高山、神山、松井、前田、北橋、竹峰
<p><活動内容></p> <p>1) エコツアー: 島探検、シーカヤック、シュノーケル、釣り、ウミホタル見学など。 2) ガイドの育成: 自然や文化、漁業をはじめ地域を学ぶことから始める。 3) 子どもガイド育成: 島の自然と生活文化のつながりを調査し、他から来た人たちに小学生がガイド。 4) 密漁パトロール: 海女漁の被害を防ぐため、密漁パトロールを実施。 5) バリアフリーエコツアー: 車いすの人にも海を楽しんでもらう。海の上をクリアカヤック(全てが透明なグラスボート)で散歩したりする。 6) 子どもパークレンジャー事業: 環境教育事業。 7) 鳥羽市エコツーリズム協議会: 結成に向け準備中。 8) 研修受け入れ、インターン受け入れ、講演など。</p>					
<p><会のモットー(何を大切にしているか)></p> <p>○環境への配慮: 立ち入りの自主ルールを策定、漁場を荒らさないルールの策定。 ○方針: 地域を愛し、持続可能な観光のあり方から、持続可能な地域づくりへの貢献を目指す。 ○ミッション: 「観光から感幸へ」。感謝する心、一軒ずつ頭を下げてこちらが出向く。</p>					
<p><設立から現在に至るまでに変化したこと></p> <p>○環境を含め、鳥羽を深く知るようになった。 ○人との関係が深まり、ガイド、商品、ツアーの質が上がった。 ○中高の同級生4人で始めたが、メンバーは変わった。</p>					
<p><連携している団体・専門家・自治体など></p> <p>○「鳥羽若女将 うめの蓄会」: センターの共同運営、エコツーリズム推進理念など情報の共有。 ○漁協: 使用許可、情報提供、環境教育プログラム協力、収益一部還元、漁場の清掃、密漁監視。 ○島民・住民、学校、現地民宿・食堂、旅行者、鳥羽市、三重県、環境省、警察、学術組織など。</p>					
<p><今までに行った調査・研究></p> <p>○現場調査: 現場に出向いて人の話を聞きながら歩く(季節、生きもの、安全な場所等を聞きとり、現場を確認) →エコツアーのルールの策定</p>					
<p><現在直面している課題></p> <p>収入面。現在の活動を次につなげるために、商品価値を高めていくことが課題となっている。</p>					
<p><今後やってみたいこと></p> <p>努力することと楽しむこと。先のことをあまり決めず、順番に目の前にあることをこなしていきたい。 みんなが幸せを感じられるようになること、「観光」ではなく「感幸」を目指す。 「持続可能な観光」。</p>					
<p><そのためにはどんな情報・人脈が必要か></p> <p>これまでに築きあげてきたネットワーク Give&Giveへ。</p>					
<p><チームオリジナルの質問></p>					
質問内容:	漁場を荒らさないエコツアーのルールを教えてください。				
答え:	答志島の磯場→上陸はガイドを除き、1日1回30人まで。長者が浜付近→1日1回40人まで。いずれも同じ磯場に3日より多く続けて入らない。				

<その他、伝えたいこと>

○菅島でのエコツアー体験

「島の人に会ったら必ず自分から挨拶をすること」「ツアーガイドよりも先に進まないこと」「島にある道具には勝手に触らないこと」等のエコツアーの決まりを聞いてエコツアーを開始した。平日ということもあり、若い人の姿はあまり見られなかったが、小学校を通り過ぎたとき、元気な子どもたちの姿が教室の窓からうかがえた。通りゆく人たちに声をかけたり、質問をすると快く答えてくれて、いろいろ話をしてくれたので、すごくアットホームな感じがした。

歩いていると、家が密集していて、同じ名字の表札が多いことに気付く。ツアーガイドの桃園ゆかりさんに聞いてみると、同じ名字が多いから、近所の人には下の名前までお互い知っているし、近所同士の付き合いも深いという。

帰りの船を待っていると、菅島小学校で英語を教えているという外国人男性に出会った。彼は鳥羽から通っているらしく、菅島の小学生はとても元気だという。船に乗っていると、ゆかりさんに元気よく声をかける少年とその母に出会った。彼は子どもガイドをしていたらしいが、とても明るく陽気で人懐こくお客さんを楽しませていたようで、彼自身もガイドを楽しんでいたという。そんな彼に、以前菅島に来たお客さんから彼と一緒に撮った写真のアルバムが海島遊民くらぶに届いたと聞き、早く見たいと心待ちにしていた。事務所に戻ってから、ゆかりさんにその写真を見せていただいたが、お客さんも子どもたちも笑顔で、楽しそうな様子うかがえた。時間が経っても、このように人のつながりが続いているということが素敵だと思った。

○ネットワークの広げ方：自分から一人ひとり足を運ぶ、呼び出したり、集まってもらったりはしない。



代表の江崎貴久さん。
事務所にて



菅島でのエコツアーの一場面



菅島で捕れた伊勢エビ



菅島の漁港の光景